



災害に備える『家族会議のお勧め』チェックリスト

2014.3.15 新川まちづくり協議会

災害から命を守る手段は、まず自分自身の努力、次いで家族の助け合いです。万一に備えての準備やそれを活かす方法は、お父さんやお母さんだけでなく、子どもさんやお年寄りなど家族全員が理解し、「万一の時の集合場所」、「家族同士の安否確認の手段」、「大切な物の確認と持ち出し方法」などと合わせて、災害の時にどのように行動するか、どのように連絡し合うかをきちんと共通の認識として固め、カードなどに記入して、常に携行することが大切です。

このチェックリストは

防災に家族のつながりを活かすには、

災害から家族のつながりを守るには、

日常、家族の間で何を話し合っておけばよいかを確認するものです。

県や市、各種専門機関からの情報を、わかり易く再構成しました。

<その日に備えて確認しておくこと>

□ 家族の間で防災確認はできていますか？（注1）

家族の日常を見直して、万一の時何が起こるかチェックしましょう。どこで被災したらどうするか、あらかじめ確認しておきましょう。被災した後、安全確認と再集合の方法を話し合っておきましょう。やってはいけないこと、しなければならないことを確認しましょう。

□ 家族の間で役割分担は確認されていますか？（注2）

非常持ち出し用は誰が管理し、どこにしまってありますか。

万一の時、どのような状況なら、だれがそれを取り出しますか。運びますか。

家族の間で守るべき人をどのように守りますか。常用薬など必需品手配はOKですか。

消火道具はどこにありますか。避難場所への道順や誘導方法は確認されていますか。



<その日に必要な事柄を確認しておくこと>

□ 地域（自治会や自主防災組織など）の防災対策の内容を知っていますか？（注3）

近隣ではどのような避難行動を推奨していますか。

まず身を守った後で、近隣から期待されていることは何ですか。

指定されている避難場所・避難所やその内容について、情報を持っていますか。

お近くの公衆電話、AED、救急診療所などの所在を知っていますか。

□ 家族が一緒になるための手段は確認されていますか？（注4）

万一の時は、どこの避難所を第一に優先することになっていますか。

通学、通勤など外出先からの帰宅ルートは確認されていますか。

安否や所在地を連絡し合う手段、優先順位などは確認されていますか。

遠くに住む親せき、近くの友人たちにも、情報共有をはたらきかけましたか。



<裏面に、各項目の補足説明があります>

(注1) ご家族間の防災確認

災害は、何時、どのような状況で起こるかわかりません。平日の日中、休日、深夜、それぞれに家族の行動や生活範囲も変わっています。それら全てを想定しきるのはムリにしても、自宅、職場、学校、移動中など起こり易い状況をいくつか想定し、それぞれについてどのように行動すればよいか、あらかじめ確認しておきましょう。その状況の中でやるべきこと、やってはいけないこと、再会の手順も話し合っておけば、例え離ればなれになっても、心の絆は生きています。経験豊かな高齢者の目、新しい知識に触れ易い若者の意見などを加えて、家族全員で確認しましょう。高齢者だけの世帯では、ついつい思い込みや面倒くささが優先し、思いがけない落とし穴が出来ていることもあると言います。遠くの親せきや近くの友人の意見も聞いて確認してみてもはどうでしょうか。

(注2) ご家族間の役割分担

災害に備えた品々、あるいは家族間での約束ごとなど一つひとつを、具体的に話し合っておきましょう。持ち出し品や消火器のなど品揃えや管理、補充などの日常的な準備作業は、たとえば一家の主婦などが通常な家事の一部として取り仕切っていることが多いことですが、大切なことは、このような作業に関する情報を家族皆がよく知っていて、万一の時には誰もが自然に利用できる状態にしておくことです。特に、消火作業や要介護者の援助は一刻を争います。詳しい役割分担を確認しておきましょう。

(注3) 地域の防災対策の確認

自分自身や家族の結束でも守りきれない緊急の場合、第二の手段はご近所からの救援を待つほかありません。地域（自治会や自主防災組織）が用意している防災対策を知り、家族の誰かが助けを求めて駆けつければ、救出の可能性も高まります。また、家族の避難行動が地域の防災活動の流れに沿って行われれば、無用な混乱も避けられることができるでしょう。

市から指定されている避難所（万一の時に身を寄せる施設）は、規模や施設の性質など、それぞれの条件により能力を発揮することが制限されることがあります。事前に家族皆がそれを承知しておかないと、とっさの時に混乱することが予想されます。災害時優先電話となる公衆電話、万々が一のための AED など、どこにどのような施設があるかを確認し、家族皆が知っているのと役に立ちます。

(注4) 家族間の連絡方法の確認

家族がバラバラになった時、どうすればお互いに連絡を取り合えるか、どうすれば家族がそろえるようになるのか、きちんと確認しておきましょう。一般の加入電話や携帯電話が通じなくなった時、NTT が設置する災害用伝言ダイヤル「171」や災害用ブロードバンド伝言板 171、携帯電話各社が提供する災害用伝言板サービスなどを利用した安否確認手段全員が知っておき事前に体験しておく必要があります（それぞれの利用法は、NTT や携帯各社のホームページを参照下さい）。阪神淡路や東日本の経験から、避難所での合流には、具体的な場所（例、玄関口、門前）と時間（例、9時から30分間）を決めておくと混乱が少ない、また、自宅の秘密の場所にメッセージを残す工夫、遠くに住む親戚や近くの友人にメッセージの中継ぎを頼む工夫も有効、とされています。